

# 中国におけるキャッシュレス化の流れ

上海駐在員事務所  
舛本 誉人

「ニーハオ！」今回はここ最近のトレンドである「キャッシュレス化の流れ」についてご紹介します。

先日、上海駐在員事務所が入居している上海ワールドトレードセンタービル1Fに設置されていた中国銀行(BANK OF CHINA)のATMが、「利用率の低下」を理由に撤去されました。

私自身も支払する場面において現金を使用することはなく、WE-CHAT ペイや ALI ペイ等の支払アプリ(以下、アプリ)を使用することがほとんどで、ATM 撤去については、ごく自然な流れとして捉えていました。

ただこの流れ、出張等で中国へ訪れる非居住者である外国人(以下、非居住者)にとっては、不便さを感じさせるようです。

既に中国では常識とも言えるようになった WE-CHAT ペイ等による支払方法しかないキャッシュレス化店舗、いわゆる「現金お断り店」(前回のコラムでも触れた「無人コンビニ」もそうした店舗のひとつ)が出現してきているからです。つまりアプリを持たない非居住者にとっては、現金を持っていてもモノを購入することができない、そんな現象がここ中国では実際に起きて始めています。

非居住者がこの不便さから脱する為には中国国内の銀行へ個人普通預金口座を開設し、アプリによる支払手段を持つことが最良の解決策ですが、筆者が実際に各銀行の支店を訪問し、口座開設可否についてヒアリングしてみると、結果は全ての銀行において非居住者の口座開設を当局の指導により不可にしているとの回答でした。(右表(下)ご参照)

では、どうすれば非居住者がこの不便さから脱せられるのか、利用方法を簡単に解説します。

まずは、WE-CHAT ペイ等のアプリを利用する為に中国国内で電話番号を取得することです。その後、スマートフォンにアプリをダウンロードします。

また、店舗でアプリを使用し支払するためには、アプリ内で利用可能な電子マネーをチャージする必要があります。電子マネーをチャージするには、中国国内の銀行口座を持っている信頼できる友人などに、自身が保有する現金と友人などが保有する電子マネーの両替を依頼し、自身のアプリへ電子マネーを入金してもらうことが必須となります。

キャッシュレス化の流れ、その背景には中国国内で偽札が出回るといって「現金不信」の考え方があるようです。店舗の立場で考えると、現金で支払って貰うよりも、電子マネーで支払って貰うほうが安心安全であり、昨今その根本的なニーズに利便性が加わり、さらにスマートフォンの急速普及が相俟って、WE-CHAT ペイや ALI ペイ等のアプリによる支払システムを爆発的に普及させるに至ったと考えられます。

この流れ、今後も留まることを知らず、更なる激流となって広がりを見せていくものと思われます。

コンビニエンスストアでの支払場面  
(WE-CHAT ペイ)



筆者撮影

WE-CHAT ペイ(左) ALI ペイ(右)の  
支払 QR コード画面



筆者撮影

非居住者(外国人)の  
人民元口座開設可否

確認先	可否
中国銀行(BOC) 国貿中心支店	×
中国工商銀行 虹橋開発区支店	×
中国農業銀行 遠東国際広場支店	×
中国建設銀行 黄金城道支店	×
中国交通銀行 黄金城道支店	×

2018年9月29日時点: 筆者調べ

(2018年10月22日現在) 1810